

## 第9章 家畜防疫体制の強化

# 1 飛騨家畜保健衛生所の移転整備

## (1) 経緯

平成30年9月からおよそ一年に亘り発生した豚熱への対応を踏まえ、県全体の家畜防疫体制を強化することを目的に、中央家畜保健衛生所（岐阜市）のみで実施してきた緊急を要する病性鑑定を、飛騨地域においても実施できる体制を整えることとした。

当時、稼働していた飛騨家畜保健衛生所が設置されている飛騨総合庁舎分室西側に新たに整備することとし、令和元年9月から整備に着手し、令和3年度末に工事が完了。移転作業後、令和4年6月3日に開所した。

### <主な経過>

令和元年 9月～令和2年7月

- ・基本設計、詳細設計

令和2年12月～令和4年3月

- ・建築等工事

令和4年 6月

- ・開所、業務開始



<飛騨家畜保健衛生所外観>

## (2) 施設概要

① 敷地面積	1,849 m <sup>2</sup>		
② 構造	本館棟	鉄筋コンクリート造	2階建
	解剖・焼却棟	鉄筋コンクリート造	1階建
	車両消毒棟	鉄骨造	1階建
③ 延べ床面積	本館棟	1,211 m <sup>2</sup>	
	解剖・焼却棟	270 m <sup>2</sup>	
	車両消毒棟	32 m <sup>2</sup>	
④ 主な施設	本館棟1階	事務室、一般検査室等	
	本館棟2階	ウイルス検査室、遺伝子検査室、高度病原体検査室 等	
⑤ 総事業費	約1億3千円		

(内訳)

建築工事	1,057,735千円
特殊整備工事	147,741千円
工事監理費	20,447千円
総合庁舎車庫移転工事	30,197千円
用地取得費	60,300千円
その他(調査・測量・設計、事務費、備品購入費等)	112,985千円

⑥ 工期 令和元年9月～令和4年3月

### (3) 施設の特徴等

敷地内での交差汚染や敷地外への病原体の拡散防止を徹底するため、人、車両の動線などに配慮するとともに、本館棟2階には、「検査室からウイルス・細菌が外に出ない」バイオセーフティレベルの高い検査室を設置した。

これまで中央家畜保健衛生所でしか対応できなかった牛や馬といった大きな家畜の解剖検査も可能とした。

従前の飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎分館1階)は、今後、野生いのしし検査のバックアップ施設として機能を維持する。

今後、防疫資材の備蓄拠点を飛騨家畜保健衛生所の西側に整備予定である。



<ウイルス検査室>



<高度病原体検査室>



<解剖棟・炉室>

#### (4) 開所式の開催

業務開始に先立ち、東海農政局、県議会議員、畜産関係団体の代表に出席いただき、式典及び内覧会を開催した。

<開所式概要>

日 時：令和4年6月3日（金） 13時30分～14時30分

内 容：主催者挨拶 河合副知事

来賓祝辞 岐阜県議会議長（代理：農林委員会委員長）

東海農政局長（代理：東京農政局次長）

高山市長

テープカット、内覧会



<開所式（テープカット）>

## 2 獣医師の人材育成

### (1) 目的等

アフリカ豚熱発生時の防疫対応の検討、家畜伝染病に対する適切な検査・予防及び専門的知見を持った農場指導を行うため、家畜保健衛生所職員（獣医師）にはスキル及び有事に対するマネジメント能力の向上が求められている。

そうした情勢を踏まえ、家畜伝染病に関する高度な知識・技術を習得するため、家畜保健衛生所職員（獣医師）を大学等へ一定期間派遣することとした。

### (2) 実績・計画

#### <令和2年度派遣実績>

北海道大学 8月 1日～10月31日 飛騨家畜保健衛生所職員

#### <令和3年度派遣実績>

北海道大学 8月 1日～10月31日 飛騨家畜保健衛生所職員

宇都宮大学 8月17日～ 9月16日 中央家畜保健衛生所職員

あかばね動物クリニック 10月11日～11月 9日 東濃家畜保健衛生所職員

#### <令和4年度派遣実績>

北海道大学 8月22日～11月18日 中央家畜保健衛生所職員

宇都宮大学 8月22日～ 9月21日 東濃家畜保健衛生所職員

あかばね動物クリニック 8月 1日～ 8月31日 中央家畜保健衛生所職員

### (3) 研修内容

#### ① 北海道大学

ウイルス検査技術の習得と、その検査結果をもとにした調査・分析手法を習得

#### ② 宇都宮大学

野生いのししの被害対策や調査、捕獲、解剖を通じて、家畜伝染病対策を講じるための知見・技術を習得

#### ③ あかばね動物クリニック

豚の管理獣医師の元へ派遣し、飼養衛生管理指導技術について、専門的な知識を習得

